

コーセイ群馬工場、すべての購入電力を 再生可能エネルギーに切り替え

株式会社コーセイ(本社:東京都中央区、代表取締役社長:小林 一俊)は、マザー工場であるコーセイ群馬工場(群馬県伊勢崎市)において、2021年1月より、購入しているすべての電力を再生可能エネルギーへ切り替えました。これは、2018年度を基準とした場合、当社グループ全拠点におけるエネルギー・購入電力由来の温室効果ガス排出量のうち、約23%分に相当します。



コーセイ群馬工場(外観)

1991年より「美しい知恵 人へ、地球へ。」をコーポレートメッセージとして発信している当社グループは、中長期ビジョン「VISION2026」の3つの基盤戦略のひとつに「バリューチェーン全体にわたるサステナビリティ戦略の推進」を掲げています。これに連動し、2020年4月、グループ全体のサステナビリティに関する取り組みと2030年までの目標をまとめた、「コーセイ サステナビリティ プラン」^{※1}を発表しました。当社グループは、環境・気候変動問題への対応は「事業成長」と「持続可能な社会の実現」の両立を図るために、欠かすことのできない重要な経営課題のひとつとして捉えています。

※1 2020年4月30日発行ニュースリリース <https://www.kose.co.jp/company/ja/content/uploads/2020/04/20200430.pdf>

当社グループでは、これまで、2018年度を基準として、2030年度までにエネルギー・購入電力由来の温室効果ガス排出量を28%削減する目標を掲げ、生産拠点におけるエネルギー利用の効率化や、営業活動における車両利用の抜本的な見直しなど、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを進めてきました。これらの取り組みにより、2020年に国際NGO「CDP」が実施した「気候変動」対応に関する調査では、最高評価である「Aリスト企業」に選出されました^{※2}。現在、国際社会全体で脱炭素社会の実現に向けた動きは加速しており、2020年10月、日本政府は「2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする(カーボンニュートラル)」という目標を表明しました。当社グループでも、より意欲的に「持続可能な社会の実現」へ貢献するため、「SBT (Science Based Targets)」^{※3}の基準を参考に、2030年度までの温室効果ガス排出量の削減目標を35%(2018年度比)まで引き上げること検討しています。

※2 2020年12月9日発行ニュースリリース <https://www.kose.co.jp/company/ja/content/uploads/2020/12/20201209.pdf>

※3 パリ協定が目指す「世界の平均気温の上昇を、産業革命前と比べて2℃未満に抑える」という目標に向けた、科学的根拠に基づく削減のシナリオと整合した温室効果ガス排出削減目標。

今後も、バリューチェーン全体で気候変動の緩和に向けた様々な取り組みを加速させ、再生可能エネルギーを利用する比率を拡大するなど、グループ全体で温室効果ガスの排出量を削減するために積極的に取り組んでまいります。

コーセー群馬工場概要

所在地 群馬県伊勢崎市境伊与久 1913
敷地面積 89,000 m²
生產品目 スキンケア・メイクアップ製品など



コーセー群馬工場

サステナビリティに対する当社の取り組み



■「コーセー サステナビリティ プラン」

https://www.kose.co.jp/company/ja/content/uploads/2020/04/kose_sustainability_plan20200430.pdf

■コーセー 企業情報サイト「サステナビリティ」

<https://www.kose.co.jp/company/ja/sustainability/>